

議 事 録

会議の名称	令和7第2回三田市行政評価委員会
開催の日時	令和7年7月16日（水） 18時30分～20時10分
開催の場所	三田市役所本庁舎3階302会議室A（オンライン併用）
出席した委員の氏名	赤澤委員長、馬場副委員長、中村（匡）委員、本田委員、稲富委員、大坂委員、菊川委員、小林委員
欠席した委員の氏名	大東委員、中村（倫）委員
出席した庶務職員の職及び氏名	高木総合政策部次長、後尾政策課長、鳴瀧政策課係長、濱山政策課事務職員
その他出席者	寛長産業振興部次長、赤井農業振興課長、長澤農業振興課参事、稲田農業振興課副課長、小谷口農村整備課長、井上学校教育部次長、宮城学校給食課長、佐藤移住定住促進課長、鈴木移住定住促進課係長、木戸都市整備部次長、四ノ宮都市デザイン課長
傍聴者の人数	無し
議題	(1) 審議 [ヒアリング対象施策及びヒアリング対象外施策に対する委員会の最終評価] (2) 今後の流れ及び答申書（案）について
会議の概要（結論）	(1) ヒアリング対象施策の質疑・応答 ①「16. 農業の振興」 ②「7. 若者が集うまち」 ③「18-1. 三田市フラワータウンまちづくりプレーヤー発掘育成支援事業」 (2) ヒアリング対象施策及びヒアリング対象外施策に対する委員会の最終評価 (3) 今後の流れ及び答申書（案）について
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ (資料9) 第2回行政評価委員会事前質問一覧 ・ (資料10) 進捗事前評価の状況 ・ (資料11) 答申書（案） ・ 関連部署主席者名簿 ・ 座席表
連絡先	総合政策部 政策課 電話 (079) 559 - 5038 内線 2212

1 開 会

- ・総合政策次長の司会により開会
- ・福祉団体代表委員役職退任に伴う次期委員就任のご紹介
- ・配布資料の確認
- ・傍聴の報告（主席者なし）
- ・パブリックコメント報告（提出意見なし）

2 議 事

(1) 審議

- ・資料9に基づき所管部署から事前質問及び第1回委員会後に出された質問等について回答の概要を説明
- ・ヒアリング対象施策に対する最終評価
- ・ヒアリング対象外施策に対する委員会の最終評価
- ・答申書（案）について

委員長：はじめに「16. 農業の振興」について、市からの説明をお願いします。

所管部署：＜「資料9」に基づき説明。※1～2ページ＞

委員：指標の設定について、実績と指標に大きな乖離がある。目標をもう少し緩やかに設定してはどうか。地域計画策定時に実施した84回のワークショップについて農会それぞれに対人受容があるとのことだが、ワークショップの参加者に限らずどこの地域でも地域計画自体を知らない人もいると思う。そこを行政がどのようにフォローしていくのか。また、地域農業者支援の具体的な取り組み内容について教えてほしい。また新規農業者の受け入れについて農地は確保できているのか。条件不一致の土地の場合、借りる人もおらず、借りた場合何もできない土地なのではないか。最後に、農福連携についてマッチングコーディネーターを置く予定はあるか。また農業関連部署だけでなく福祉部局との連携は、どのようにしているのか。

所管部署：指標について、地域計画策定時と新型コロナウイルス等、情勢が変わっているため、次期計画見直し時、実態に合わせて見直していきたい。地域計画について、三田市では9割以上の地域で策定できたが、担い手不足等様々な課題が顕著となった。今回のワークショップを通して課題について地域と共有できたため、それぞれの地域に合わせて寄り添っていきたい。80地域において、地域計画を策定したが、全ての地域に市が入ることは人力的な課題がある。特に課題のある地域や、これから動き出そうとしている地域を逃さないよう状況把握に努めたい。提供できる農地について、市では農地バンクという制度があり、誰でも見ていただける。また農地を探している人や維持管理に困っているという声を課内で共有し、必要な人に情報が届くよう体制作りを進めたい。農福連携について、現在も福祉部局と連携して事業を進めている。今後、農福連携技術支援者を通したマッチングを積極的に進めたい。事業を受ける福祉事業者について、現場での農作業には支援員の配置が必要であるが、人力的な課題がある。農業者側について、施設利用者への配慮等支援が必要となるので市がアドバイスして

両者が win-win となるよう伴走していきたい。

副委員長：農業振興は全国的に様々な問題がある。新規農業者育成と半農半Xでは求めるものや必要なものが違うと思う。三田市は都市と近いためどのように受け入れていくかは課題である。どのエリアからの相談が多いのか。もし三田市外から来られる場合は住宅の問題もあると思うが、どのような支援があるのか。

所管部署：市内で相続についての相談や都市部や市外から農業をしたいと相談もある。市外からの相談については移住定住促進課と連携しながら住宅の支援を行っている。また市外から来られる場合は、地域へどのように繋ぐかが農業を継続するために最重要だと考えている。

委員長：様々な問題が顕著になったが、課題を直接解決しようとするのではなく更に農業部局以外との連携が必要。農福連携をテーマに、緑と農に親しむ公園として地域の農業を変えながら様々な取り組みをしている「京田辺クロスパーク」を紹介する。地域の農業を変えながら様々な取り組みをしている。コーディネーターの活躍について福祉分野に留まらず検討してほしい。第5次総合計画の期間中に目標を変更することは難しいが、課題を整理しながら今後の施策展開に繋げてほしい。

～ 所管部署 退室～

委員長：次に「7. 若者が集うまち」について市からの説明をお願いします。

所管部署：＜「資料9」に基づき説明。※2～3ページ＞

委員：私は銀行で働いているが住宅ローン融資の際、近隣市より三田市の方が住みやすく三田市内に住宅を決めたという話を聞いた。仕事に関して、企業側は30歳代を採用したいがきっかけがないと聞く。三田市内でのイベントや若者へのPRで民間企業が関与できる場所はありますか。

所管部署：若者の移住定住に働く視点は重要だと感じている。三田市が子育てに理想的な場所であっても仕事がなく移住に繋がらないケースがある。働く場の見せ方やマッチングについて産業政策課と連携して進めていきたい。民間企業からもPR方法についてご意見いただきたい。

委員：毎月2万円程度のお金を支払って、婚活アプリをしている知人がいるが、マッチングは難しいと言っていた。令和6年4回のイベント開催について、知人は全員知らなかった。もっと効果的なアピールが必要ではないか。どのようなイベント内容なのか、定期的を開催しているのか教えてほしい。

所管部署：趣味趣向で集まれるイベントは、18～40歳対象であるが、それ以上の年齢の方が参加された実績もある。イベント内容は、キャンプ場で花火や流しそうめん等のイベントの中で自分を深掘りするもの、クリスマス会、婚活セミナー、モデルケースとなる先輩夫婦から話を聞くもの等がある。周知方法については悩んでおり、三田市商工会等を通してチラシを配布したり、LINE等SNSで発信している。三田市広報誌には必ず掲載しているので確認してほしい。

委員長：移住では、夫婦それぞれが働ける環境が重要。また周知方法について、市ができることには限界がある。チラシを見て動く若者はいない。インフルエンサーにお願いする等、行政だけで実施しないことが重要。

委員長：最後に「18-1. 三田市フラワータウンまちづくりプレーヤー発掘育成支援事業」について

て市からの説明をお願いする。

所管部署：＜「資料9」に基づき説明。※4ページ＞

委員：デジタル田園都市国家構想交付金（以下、交付金という）は、令和6年度で中断したが、「三田スモカモス・プロジェクト」等、他の事業とどのように連携していくのか。別事業として進めていくのか。

所管部署：当初、既にプレーヤーとして活躍されている方をメンターとしてお迎えし、またこれから三田に関わってもらうことを期待して「三田スモカモス・プロジェクト」に参加する学生をサポートメンバーとして組み込んでいた。令和6年度以降、交付金を受けることはないが、両者の親和性が高いことは分かったので、事業継続のためそれぞれの人材が交流でき、また活躍の場をフラワータウンに限定することなく進めていきたい。

委員：フラワータウンだけでなく、横展開で進めてほしい。

委員長：本来、事業が上手く進んでいるならば、交付金をやめるのではなく、予算を拡大して進めるべきだと思う。コーディネーターとの繋がりについて三田市は弱いと思う。他市では登録制コーディネーターを導入している。1人のコーディネーターが全てを担うと、メンバーとの相性が悪かったり、失敗した場合のリカバリーが難しい。ただやめるのではなく、課題を次にどう繋げるか、各施策にちりばめるのであればどのように展開していくかを考えなければならない。

所管部署：この事業に限らずコーディネーターの重要性は実感している。まずは、立ち止まって市が伴走できる体制を構築したい。また、この活動が持続可能なものにしていくためには資金面、マンパワー等、様々な協力者が必要。三田市が一時的に補助金を出すという関係性はマイナスになる可能性がある。関係性を構築するには時間が必要。

委員長：このような施策は段階を設けて進めるといいかもしれない。人口減少社会では、大きな再開発をして人口を増やす政策がよくとられるが、その効果も十分にあると前提にしながら、今回のようなソフト面のまちづくりも併せて進めてほしい。

委員：三田市が掲げる「若者」は年齢層が広い。婚活やフラワータウンでの活動等、様々な事業に取り組んでいるが、ターゲットが様々で漠然としてしまう。事業を絞った方がいいのではないか。

所管部署：ターゲットを絞ることは重要であるが、「三田市フラワータウンまちづくりプレーヤー発掘育成事業」が、「三田スモカモス・プロジェクト」と異なるところは、年齢を若者に絞っていないところ。若年の方が持続可能な事業になると思うが、フラワータウンは開発が止まっているため、人口構成がいびつ。対象年齢を絞ると人材が埋もれてしまう可能性がある。実際、参加者の年齢にもばらつきがあった。活動内容も、地域に特化した活動から、「やってみたいこと」をキーワードにしている。様々なテーマがあるので、活動する人が増え、ファンや活動を支援する人が集まるまちになるのではないかという仮説で進んでいた。ただ、事業の展開については、手探りのところもあり、市側の準備不足も否めない。失敗部分は今後の教訓として改善を図っていきたい。

委員長：厳しい意見も出たが失敗ではない。課題を認識できたという成果を得ることができた。

副委員長：同じことを継続しなければならないとも思わない。違う形でも、地域の方がやってみようと引き継がれていくきっかけを行政が作ってほしい。集客等の数字だけにこだわらなくてもよいと思う。

委員：若者を巻きこむといいのでは。事業に学生等が関わることで課題から三田を知ることになる。

委員長：仕事は、「やりたいこと・できること・やってほしいこと」のバランスを考えながら選択する。最近はやりたいことはないけど、誰かの役に立ちたいというケースが多い。達成目標として、ソーシャルキャピタル（社会的なつながり）の上昇としてはどうか。

委員：やりたいことはないが誰かの役に立ちたい学生は多いと思う。

～ 所管部署 退室～

委員長：ヒアリングを踏まえてヒアリング対象3施策の最終評価を決定したい。まず「16. 農業の振興」について意見はあるか。

副委員長：一生懸命取り組んでいるが、変化がない。色んな視点で考えなければならないが、現状の延長のような印象。もっといろんなところと連携し新しい取り組みにトライしてほしい。期待をこめて「C」でどうか。

委員：新しいことはなくワクワク感がない。綺麗な言葉が並んでいる印象。

委員：指標をどのように見直していくのか具体が分からない。

委員長：厳しい現状はあるが、次の展開を聞けなかった。変化が必要。期待を込めて「C」でよいか。

全委員：了承。

委員長：次に「7. 若者が集うまち」について意見はあるか。

委員：広報誌はどのように配布しているのか。

事務局：住民票ベースではなく、三田市に住んでいるという実態があればポスト投函される。

委員長：若者世代が見ない広報誌での周知は考え直したほうがいい。「B」のままでよいか。

全委員：了承。

委員長：最後に「18-1. 三田市フラワータウンまちづくりプレーヤー発掘育成支援事業」について意見はあるか。

委員：ダンスを広めたい人等、色んな人材が出てきたのに中断してしまうのはもったいない。今後も上手く進めてほしい。

委員長：上手く進んでいる事業なら、進め方があるのではないかと感じてしまう。

委員：この先の展開が見えず評価が難しい。

委員長：つい次の展開をヒアリングしてしまうが、本委員会は昨年度の実績を評価する場。伴走支援のマンパワー不足等、市側の見積もりが甘いところはある。本委員会で出たところを答申書に文言で加え伝えることとして、最終評価は「B」でよいか。

全委員：了承。

委員長：ヒアリング対象外施策について意見はあるか。

全委員：意見なし。

委員長：ヒアリング対象外施策については、現状通りとする。

全委員：了承。

事務局：今後の流れについて、第2回議事録（案）について、7月22日（火）委員宛送付予定。
修正がある場合は、7月24日（木）までに政策課まで報告をお願いする。答申書（案）
は7月24日（木）以降、委員宛送付予定。答申書は、当委員会より市長提出後、今年
度の結果として市ホームページ掲載。

委員長：最終、事務局と委員長で最終調整し内容を確定してよいか。

全委員：了承。

委員長：答申書（案）の総括部分に、明らかになった課題を行政のみで解決しない、事業内容等
の見直しにあたっては施策間連携を検討する等、第5次三田市総合計画（後期）策定
の際に参考にしていただけるよう明記できればと思う。

～ 閉会 ～